

## J R 連合結成 30 年を迎えて

2022年5月18日

日本鉄道労働組合連合会（JR 連合）

本日、JR 連合は結成から 30 年を迎えた。1992年5月18日、私たちは国鉄時代からの労働組合の離合集散、労使の対立や職場の荒廃などの不幸な歴史に終止符を打ち、真に JR 労働者を代表し、社会的信頼と組合員の負託に応えられる産業別労働組合たる JR 連合を結成した。そして本年は、鉄道開業 150 周年の節目にもあたる。

結成大会アピールでは、「自由にして、民主的な労働運動の継承と、その拡大・発展に全力をつくすとともに、時代を先取りした創造的な政策推進を通じ、JR 各社における経営の安定と発展をはかり、組合員の雇用確保、労働条件の維持・向上のため、『力と政策』にもとづくダイナミックな運動を展開していくことを改めて表明する」と力強く謳われている。

国鉄改革では 7 万 6 千名が鉄道を去る雇用不安の悲劇を経験した。そして、経営自主性を確保し鉄道を再生する改革の趣旨に基づき、JR 各社の労使の努力によって JR グループは成長、発展を遂げ、社会を支える基幹産業としての役割を果たし、組合員と家族の雇用を守り地位を向上させてくることができた。また、10 単組 7 万 6 千名で結成した組織は、現在、98 単組 8 万 6 千名となり、名実ともに JR 産業を代表する責任産別となった。

JR 発足から本年 4 月で 35 年が経過したが、少子高齢化と人口減少、大都市一極集中と地方の衰退、道路網の整備の進展、第 4 次産業革命とも評される技術革新など、私たちを取り巻く環境は劇的に変化し、コロナ禍により変化が加速している。また、JR 各社間の経営体力の格差や、新幹線や大都市圏輸送などの鉄道特性を發揮し得る分野と發揮し得ない分野との格差が拡大している。私たちは国鉄改革に並ぶ産業としての大転換期にある。揺るぎなき安全を確立し、世界に誇るわが国の鉄道をさらに発展させ、JR 産業が持続的に成長していくためには、従来の延長線上でなく、社会変容に対応し、変化を先取りした改革が必要である。JR の民間活力を發揮しつつ、成長分野を磨くとともに、不変である公共的な役割を果たしていかなければならない。そのために、官民のパートナーシップの強化をはじめ、鉄道政策の大きな転換も求められているといえる。

また、JR 連合は JR 産業の代表産別であるとはいえ、組織の拡大は道半ばである。JR 産業に働く仲間の総結集へ邁進するとともに、すべての JR 会社との信頼関係を確立し、JR 労使が一致協力して、安全を基盤に JR 産業の持続的な成長にむけて歩みを進めなければならない。そして、働く仲間の安定雇用を確保し、社会的、経済的な地位を向上させ、誇りと働きがいの持てる魅力ある職場を築いていかなければならない。私たちはこうした問題認識に基づき 10 月 6 日に記念行事を開催し、次代にむけて提言を発信する考えである。

JR 連合結成 30 周年にあたり、あらためて苦難を乗り越えてきた輝かしい歴史を再認識するとともに、先達の奮闘努力と、私たちを支えていただいていた関係各位のご協力に心より敬意を表し、感謝を申し上げる。そして、この節目に次なる 30 年を展望し、さらなる発展にむけて責任ある運動を力強く推進していく決意を表明する。